

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・基礎学力向上が本校の重点課題と考える。前年度に一定の評価が得られたことから、今年度も引き続き「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善、授業研究を行い、基礎学力の定着をもとにした主体的、対話的に学ぶ児童を目指していく。 ・前年度までの取組により児童の豊かな心が育ってきている。今年度も引き続き、豊かな心の育成を重視し、定期的にアンケートを実施し、必要に応じて声かけを行いながら児童に寄り添い、豊かな心の伸長を継続して取り組む。 ・基礎的な体力向上をねらい、感染予防対策を講じたうえで外遊びの奨励を続けてきた結果、多くの児童が元気よく外遊びに興じる姿が見られている。今後も保健体育部を中心に児童の健康安全な生活の取組を継続していく。また、「食」に関しても、栄養教諭を中心にした食育指導を推進継続していく。 ・本校の教育課題の達成に向けて「保護者・地域等との連携」を掲げている。そのために様々な体験的活動を仕組み、その教育効果を更に高めてきている。今年度も保護者や地域との連携・協働を進める。
------------------	--

2 学校教育目標	ふるさと「西唐津」を愛し、心豊かに、たくましく生き抜く児童の育成
----------	----------------------------------

3 本年度の重点目標	知：やる気⇒①子どもが活躍する授業づくり ②基礎基本と学習習慣の定着 ③学習規律と学習意欲の確立 ④新時代に対応した教育の確立 ⇒『学力向上に積極的に取り組みます』 ②徳：ほん気⇒①温かい学校・学級づくりの推進 ②基本的な生活習慣の育成 ③特別支援教育の充実 ④体験活動の充実 ⇒『思いやりの心を持ち「人・もの・こと」にかかわる心を育てます』 ③体：げん気⇒①体力づくりの推進 ②健康指導の充実 ③食育の充実 ④危機管理体制の確立 ⇒『安全・安心な学校づくりに取り組みます』 ④保護者・地域等との連携を推進する。～チーム西唐津の推進～
------------	--

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価【非公表】 ※唐津市は「県立学校の管理に関する規則」に準じて、計画と結果を公表することとなっています。		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)				達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	●「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善による学力向上対策。 ○寺子屋教室、補充学習による基礎基本の定着	○個別最適な学びと協働的な学びを推進する唐津の学びスタイルチェックシートによる振り返りで、平均3点以上。	・定期的に校内研修会等で、学びスタイルの進捗状況を確認する。また、他の学年と進捗状況を共有し、更なる取組の促進を図る。			B	・授業公開を行った教師は100%で、全職員による切磋琢磨が進み、お互いでよさを取り入れている。しかし、チェックシートによる振り返りで、平均3点以上達成は、厳しかった。	B	・低学年の生活上の課題について、就学前機関ともしっかり情報共有して早めの対応を考える必要がある。	教務 研究主任	
		○教師一人ひとりが、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を推進する授業づくり7つのポイント」に則り、これまで通りの授業改善を進める。	●授業づくり1・2・3チェックシートで「ステップ3(深化)」の数を3つ以上とする。 ○学びのスタイルチェックシートすべての項目で「3」以上とする。	・一人一人の教師の思いを大切にしながら、足並みを揃えるところは揃え、学校全体として授業力・教育力を高めていく。			B	全教職員の足並みがそろい、授業改善に取り組んでいる。100%の教職員がICTの効果的活用が進んだと捉えているが、県学調の結果等、児童の学力向上に十分に繋がっているとは言い難い。	A		・全校の足並みが揃った実践が感じられる。タブレットの活用も充実している。
●心の教育	○「『出会って、かかわって、つくりあげよう～尊重し合う友だち関係づくりをめざして～』をテーマに豊かな心の育成。	○「友だちに対して思いやりの気持ちをもって優しくしていますか。」について、肯定的な回答をした児童が85%以上とする。	・縦割り活動やボランティア活動を通してお互いを思いやる経験を積めるようにする。 ・児童の善い行いに気づいた教師が「ほめめカード」を書いて掲示し、児童のよさを認める温かい雰囲気作りをする。 ・ふれあい道徳や通信による保護者との連携。			A	・縦割り活動やボランティア活動、体験学習等を計画的に実施し、お互いを思いやる経験をする事で児童の豊かな心が育ってきている。生活アンケートでは、90%以上の児童が優しい友だちがいてと回答するなど、周りへの感謝の気持ちをもった生活ができている。	A	・登下校中に一度立ち止まって「おはようございます。」と、あいさつする児童が増えて感心している。これは、学校で「語先後礼」を取り上げて指導してある成果である。	人権・同和教育担当者 道徳推進教員	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実とともに「いじめの見逃し」の体制構築。	○いじめアンケートや毎月初めの「西小アンケート」の結果をもとにいじめの早期発見と見逃しに努め、担任、生活主任、SC、SSW等と連携して迅速・適切に解決に当たり、再発防止に努める。	・日常の児童観察や毎月の「よい子アンケート」等で、児童の状況・状態の変化に気付く。 ・気になる児童については職員同士で密に情報交換を行う。 ・必要に応じてSCやSSWとも連携し、よりよい方向性を見出す。			B	・学校では定期的に「西小よい子アンケート」を実施し、あらゆる場面で児童の友だち関係の把握に努めることができた。また、その把握をもとに生活協議会を開き、全職員で対応の組織化・共通理解に努めることができた。	B	・学校は、「西小よい子アンケート」、「いじめアンケート」等、あらゆる場面で児童の心身の状況把握に努め、いじめの未然防止・早期発見の体制が充実している。 ・児童、家庭、学校が連携して「言葉」とその「言い方」について研修を深める必要がある。	教育相談担当者 生活部主任	
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組むキャリア教育の実践。	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童(小学6年生)85%以上とする。	・地域の人々との交流を通して学ぶ体験活動を各学年、年3回以上実施する。 ・キャリアパスポートを計画的に活用する。			A	・地域ボランティアの方々との連携体制が確立され、児童が積極的に体験活動に取り組むことができた。 ・児童の思いや考えの変遷が分かる資料を厳選して残していくよう、共通理解を図った。	A	・学校は、地域の人的、物的資源を効果的に活用し、児童の心の育成を図っている。	教頭 教務	
●健康・体づくり	○「心身ともにたくましい西唐津の児童の育成」をテーマに運動習慣の改善と定着化。	○外遊びや体力作りに関する児童用アンケートを実施し、その達成率を90%以上にする ○運動前後における自己の健康管理の意識を確実にもたせる。	・体育委員会からの放送や担任からの呼びかけを継続し外遊びを奨励する。 ・体育学習の工夫(カリキュラムの工夫)を行い、体育の授業や体を動かすことが好きな児童を増やす。とともに、健康観察カードによる健康管理に努める。			A	・よく外遊びをする子とそうでない子の2極化が見られる。次年度の課題だと思われる。 ・持久走大会、マラソン月間を12月に設け、昼休み終わりの10分間全校児童でランニングに取り組んだ。練習、大会共に多くの児童が真剣に取り組むことができた。	B	・地域に外遊びができる場が少ないことに加えて、感染拡大により児童が地域で体を動かし運動する機会が減少している。学校・地域が一体となって体力づくりに努める必要がある。	保健部主任 給食指導担当者 栄養教諭 生活部安全教育担当者	
	○「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」をテーマに学校における食育を推進。	○「健康に食事は大切である」と考える児童90%以上とする。	・早寝、早起き、朝ご飯の取り組みを家庭と連携して行い、望ましい食生活を身に付けさせる。 ・定期的に食生活アンケートを実施する。			A	・毎月、栄養教諭より食育啓発「ばくばく通信」を発行し、児童と家庭の「食」に関する意識の向上を図ることができた。また、各学年で担任と栄養教諭による食育授業の実践ができた。	B	・児童の遅刻が多いという課題解決のためにも「早ね早起き朝ごはん」の取組を、もっと家庭へ啓発する必要がある。学校は、児童の遅刻に対してもっと厳しく指導する必要があるのではないかと。	給食指導担当者 栄養教諭	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と職員の時間外勤務時間の削減。	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎週月曜日を定時退勤日とし、全職員で声を掛け合う。 ・校務サーバーを整理し、これまでの文書データを効果的・効率的に活用できるようにする。 ・校務を整理し、諸問題に対してチームとして対応できるようにする。			B	・全体的に時間外勤務時間は減ってきている。しかし、コロナ関連の出席停止児童の増加に伴い、家庭への連絡及び対応の時間の確保が必要であり、より一層業務の効率化が必要になってきている。	A	・コロナ禍で授業参観等が制限される中、学校便り、はなまるメール、学級通信の適切な発信に感謝している。一方で、もっと頻繁に出してほしいという家庭の声に対して、学校に過度な負担とならない程度で、学校と家庭の新たな連携体制の整備を期待する。	教頭	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○特別支援教育の推進	○共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの充実と環境の整備。	○各学期初めに、児童の活動が見える教室環境を整える。 ○2学期以降に、特殊音節などのアセスメントを行い、必要な支援につなげていく。	・各教室のまなびやすい環境作りを進める。特に特別支援学級においては、仕切り板の活用など個に応じた場の設定を行う。 ・アセスメントをもとに、必要な支援につなげている。			A	・特別支援学級や通常学級では、児童の持つ困り感が大きく違う場合が多かったが、それぞれの児童に応じた支援や指導を行うことができた。また、特別支援教育に関する研修や気になる子研等を通して、特別支援教育や児童についての理解を深めることができた。 ・多様性に応じた教育体制の構築に課題が残った。研修を通して充実を図る必要がある。	B	・特別支援教育への理解が進んでいる。全校児童の特別支援学級児童への言葉かけがとてもしやすい。 ・特別に配慮を要する児童に対する学校の情報共有が適切に行われている。 ・多様性に応じた教育体制について、家庭へ周知し、啓発もしてほしい。	特別支援教育 コーディネーター	
○地域連携・幼小中連携	○小中学校9年間の一貫した授業形態による幼小中連携の推進。	○「授業づくり1・2・3」を活用した主体的・対話的な学びを取り入れた授業を実践したと答えた教員80%以上。	・中学校との連携は9年間というスパンを見据えながら計画を立て、内容の充実も図っていく。 ・年3回以上、小中交流会を実施し、「授業づくり1・2・3」を活用した主体的・対話的な学びを取り入れた授業を公開する。			B	・幼小中連携に加え、幼保小連携のさらなる充実が必要である。 ・6年間を見通した学力向上の取組は進んできたが、幼小中連携として9年間を見通した取組にさらなる工夫が必要である。	B	・小学校独自の6年間を見通した学力向上の取組は進んでいる様子であるが、幼小中連携として9年間を見通した取組には、さらなる工夫を期待する。	教務 教頭	

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・組織的な学力向上対策により、学年が上がり、担当担任教師が代わっても見通しを持って学習を進めノート整理ができた。ICTを効果的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に進め、「主体的、対話的で深い学び」の視点での授業改善に努める。 ・児童の心の交流を図る外部人材を活用した体験的学習等の積極的な取り組みにより、学校目標「ふるさと『西唐津』を愛し、心豊かに、たくましく生き抜く児童の育成」に近づいている。次年度も異学年交流や学年間交流を活性化させ、児童の豊かな心の育成に努める。 ・薬剤師による防煙教室と薬物乱用防止教室、学校歯科医と連携した感染症対策、栄養教諭と連携した食育の取組など、人的物的資源を活用し健康安全教育を充実させることができた。次年度も、地域や学校内外のチーム学校の人材を的確に組み合わせ、教育効果を高める。 ・今年度新たに取り組んだオンライン社会科見学や世界各地、沖縄の学校とのオンライン交流等を広げ深めて、あらゆる教育活動において、ICTを活用して「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる取組を推進し、「学びの継続・発展」を図る。
--------------------	--